

東日本地区 液化ガス貯蔵設備の容量等の公表（2026年度）

1. 貯蔵設備およびガス発生設備

	富津火力発電所 LNG 基地 (富津基地)	東扇島火力発電所 LNG 基地 (東扇島基地)	袖ヶ浦火力発電所 LNG 基地 (袖ヶ浦基地)	南横浜火力発電所 LNG 基地 (南横浜基地)
貯蔵設備	1360 千 kL	540 千 kL	1185 千 kL	111 千 kL
気化設備	能力：3540 千 m ³ /h 種類： オープンラック式	能力：2463 千 m ³ /h 種類： オープンラック式	能力：1302 千 m ³ /h 種類： オープンラック式 サブマージド式	能力：390 千 m ³ /h 種類： オープンラック式
熱調設備	430 千 m ³ /h	—	—	—

2. 利用可能な船舶の種類および船型

	モス型		メンブレン型
	従来型タンクカバー	連続型タンクカバー	
富津基地	18 万 m ³ 級	18 万 m ³ 級	21 万 m ³ 級
東扇島基地	18 万 m ³ 級	18 万 m ³ 級	21 万 m ³ 級
袖ヶ浦基地	—		
南横浜基地	—		

注：船舶の受入可否の判断については、船陸整合性の確認を必要とし、確認結果によっては受け入れることができない場合があります。また、袖ヶ浦基地と南横浜基地については東京ガスとの共同基地のため、受入量および受入可能な船舶について協議をさせていただきます。

3. 液化ガスの種類および品質

熱量	41 ~ 46 MJ/m ³ N	
液密度	430 ~ 465 kg/m ³	
組成	メタン	81 ~ 97 モル%
	エタン	0 ~ 17 モル%
	プロパン	0 ~ 3 モル%
	ブタン	0 ~ 2 モル%
その他	硫化水素	0.00 g/m ³ N
	全硫黄	0.00 g/m ³ N
	固形またはその他の不純物および異物を含まないこと	

注：受け入れることができる LNG の品質は、個別の基地利用の条件や個別の貯蔵設備の運用実態によって異なるため、上記の数値は目安とし、その他の項目については個別に協議させていただきます。

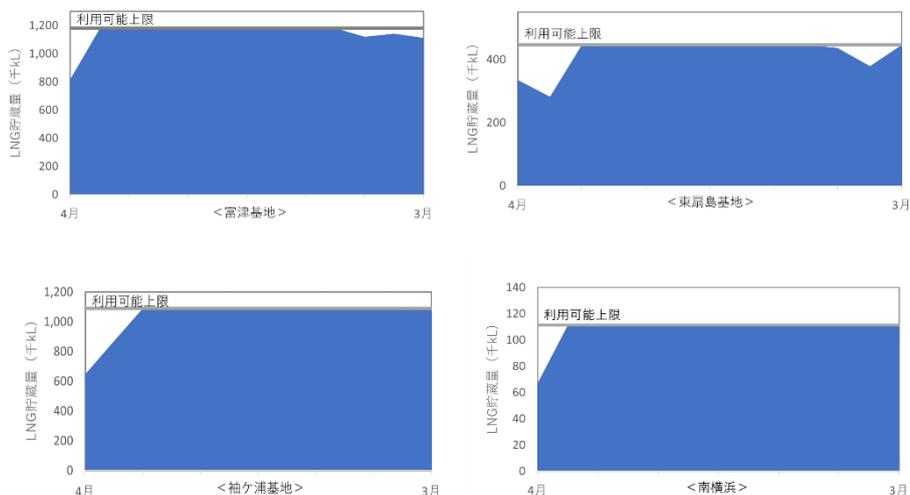
4. 配船計画の策定期間の見直し

当年度の配船計画の策定スケジュールは概ね以下のとおりです。

- ・前年度 7 月頃 : LNG 売主との間で配船計画に関する協議を開始
- ・前年度 12 月～3 月頃 : LNG 売主との間で詳細な年間配船計画を策定

(注) 上記は、おおよその策定スケジュールであり、具体的な配船計画策定スケジュールは、それぞれの LNG 売買契約の規定によって異なります。

5. 液化ガス貯蔵設備における液化ガスの貯蔵余力 (イメージ)



注：上図は LNG 貯蔵のイメージを示すものです。傾向として、季節に係わらず、LNG の受入状況、電力（ガス）の需要動向、発電所等の設備工事等によってタンク内の在庫は大きく変動いたします。

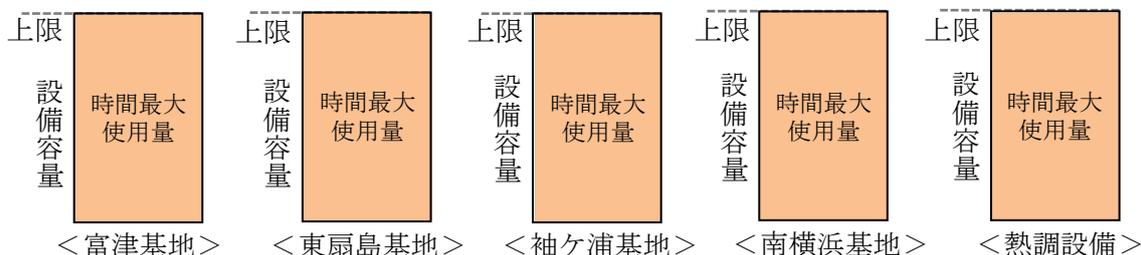
(1) ルームレント方式での余力

ルームレント方式による一般的な LNG 船 1 隻 (約 120 千 KL) を受け入れられるだけの余力はありません。

(2) ルームシェア方式での余力

条件次第でご利用可能となる場合がございますが、実際の貯蔵能力は、需給動向や受け入れ状況によって変動しますので、詳細に関しましては別途お問い合わせください。なお、ご利用にあたっては、LNG 在庫の賃借を行うことを前提に、年度終了時に在庫が 0 となるよう、払い出しを調整させていただきます。

6. ガス発生設備におけるガスの製造余力 (イメージ)



すべての基地において、ご利用いただける余力はありません。

注：上図は LNG 気化余力および熱調設備余力のイメージを示すものです。傾向として、季節に係わらず、電力（ガス）の需要動向、発電所や気化設備等の設備工事等によってガス製造余力は大きく変動いたします。また、富津基地および東扇島基地については、他の基地から融通できる製造能力を含んでおりますが、設備運用上、全ての能力を恒常的に利用できない場合があります。